

図書館だより 二〇十三年 三月増刊

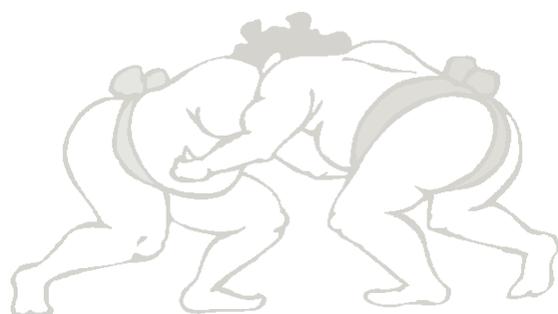
ふるさとの風 弥生 〈増補版〉

春風駘蕩

～ 春のお伊勢場所 ～



Spring Grand Sumo Tournament in Ise



陰暦でいう三月は春たけなわのころ。

異称はどれも明るいものばかり。

弥生、桜月、花見月…

弥生の弥の字には、いきわたる、いよいよなどの意味があり
“いやおひ”が変化して弥生となり、草木がいよいよ生い茂るとされる。

風雨改まりて、草木いよいよ生ふるゆゑに、

いやおひ月といふを誤まれり ~奥儀抄~

先駆けて咲く梅を追って木蓮や雪柳が咲き始める。

やがてやわらかな風が春の気配を告げ桜が出番を迎える。

ふるさとの風
弥生

春風駘蕩 ~ 春のお伊勢場所 ~

Spring Grand Sumo Tournament in Ise

待ちわびた桜が花開き五十鈴川の岸辺が桜色に染まる頃、化粧廻しもきらびやかな力士たちが宇治橋を渡る。

神宮の春の風物詩、神宮奉納大相撲である。

春のお伊勢場所と呼ばれ、昭和三十年の第一回から数えて今年で五十八回目を迎える。

三月場所千秋楽の一週間後に開催されるのが通例である。

国技・大相撲を神宮に奉納する神宮奉納大相撲の主催は伊勢神宮崇敬会。

協賛の日本相撲協会は相撲巡業とは趣旨の異なる恒例行事として第一回より協会あげて取り組んでいる。

第一回神宮奉納大相撲が開催された時の様子が次の様に記録されている。

現在まで（平成二十年第五十三回）長く続いている神宮奉納大相撲の第一回は昭和三十年（一九五五）三月、会場となる神宮相撲場は、神宮崇敬者参宿所の見晴らしのよい高台にその年の二月に完成した。周辺の観覧席を合わせれば、総面積一三〇〇坪で一万二〇〇〇人収容できる。三十年三月一日は絶好の相撲日和に恵まれ、熱心なファンは早朝から詰め掛け、午前八時の開幕を待っていた。テレビが普及していない時代であり、力士を一目見ようと熱狂的な観衆が集まり、予定を繰り上げて開門した。この日午前九時、千代の山、栃錦、鐘里、吉葉山の四横綱等、力士代表一行は、参拝し、内宮神楽殿での奉納大相撲奉告祭に参列した。（伊勢市史 第五巻現代編）より

当時の人々の熱狂的な盛り上がりを感じられる。

「すもう」という言葉は“争う”“抵抗する”という意味の動詞「すまふ」に由来する。

「すまふ」の連用形「すまひ」が名詞として用いられ、

これに漢語「相撲」の表記があてられ「スマイ」と発音されていた。

「すまひ」とは“競い合い”を意味し用いられ、殴り合いや蹴り合いも「すまひ」であった。

「相撲」以前の「すまひ」の姿は神話の中に断片的にうかがい知る事ができる。

古事記の天石屋神話では、石屋に籠もった天照大御神を強力な力で引き出した天手力男命^{あめのたぢからのおのみこと}は、天上界で最高の力持ちでありその功績にちなんで内宮の相殿神として祀られ、最古の力士とされている。また国譲り神話に登場する建御雷神^{たけみかづちのかみ}と建御名方神^{たけみなかたのかみ}の力くればは、天孫側の建御雷神が勝利し国譲りを成功させる。降伏した建御名方神は長野県諏訪に追いやられ諏訪大社の主祭神になったとある。日本書紀によると垂仁天皇の御前で野見宿禰^{のみのすくね}と当麻蹶速^{たいまのけはや}が日本一をかけて争い、これが相撲節^{すまひのまつり}の起源と位置づけられ、勝利した野見宿禰は相撲の始祖とされている。相撲は古くから日本人のくらしと強く結びつき神事との関わりも深く、国技として尊ばれてきたのである。

神宮奉納大相撲ならではの華やかな呼び物が神苑で行なわれる「手数入り奉納」^{てずいりほうなつ}。手数入りとは横綱の土俵入りのことである。当日午前十一時、神宮の神職を先頭に呼出、行司、そして色彩やかな化粧廻しをつけた横綱はじめ三役力士が宇治橋を渡る。桜咲き匂う五十鈴川にかかる宇治橋を力士が渡る光景に、華やかな中にも厳かな空気が張りつめる。その後、神苑において横綱の“手数入り”と三役力士による“揃い踏み”が行われる。神へ奉納する力士の晴れ姿を満開の桜が見守る。

一方、神宮会館内の神宮相撲場では午前七時より若手力士の稽古相撲が始まる。初切や相撲甚句、櫓太鼓の披露などがあり、午後から幕内力士によるトーナメント戦が行われる。本場所さながらの熱のこもった取組に場内は歓声に包まれる。陽春の伊勢で神へ技の限りを奉納した力士たち。清新な気持ちで次の春巡業へ向かう。

昭和を代表する大横綱が今年一月この世を去った。不世出の天才横綱大鵬——。大鵬の名は中国の古典にある伝説上の巨大な鳥に由来するという。「巨人、大鵬、卵焼き」という言葉に象徴される昭和の高度成長期の主役の一人、大鵬は彗星のようにさっそうと現れ、一世を風靡し日本に夢と希望を与えた。心・技・体、相撲の歴史に名を刻む類稀なる名力士であった。横綱大鵬も幾度となく宇治橋を渡りその勇姿を神の御前で披露している。

今年平成二十五年の神宮奉納大相撲は三月三十一日。桜咲き誇る神苑で手数入り奉納を行う力士の姿を天高く見守る巨鳥大鵬の姿があるだろう。大きな翼を柔らかな春風にのせて—。

そして…

内宮神苑奥深く天手力男命と横綱大鵬の力くればは永遠につづいている…かもしれない。





図書館だよりNo.133 増刊 平成 25(2013)年 3 月 1 日発行

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住 所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://iselib.city.ise.mie.jp/>